

- ② 自治会の回覧板を電子化
- ③ 携帯トイレの備蓄を
- ④-⑤ **特集** 戦後80年
未来へつなぐ戦争の記憶
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 アプリは「マチイロ」「カタログポケット」ネットは「マイ広報紙」



暮らしを支える

青空から日差しが照り付ける工事現場。その先に延びる道路には、乗用車やトラックが行き交っています。愛名で整備が進む厚木環状3号線の現場では、新たな道をつくるため大きな重機が音を立て、作業員たちが大粒の汗を滴らせています。一つ一つの作業が道をつなぎ、私たちの暮らしを支えています。

道路は、人と物を運ぶ大切なインフラです。市内は古くから交通の要衝として栄えてきました。今では五つのインターチェンジをはじめ、大小さまざまな道路網が張り巡らされています。

7月には、酒井地区の南部産業拠点と愛甲石田駅を東西に結ぶ酒井長谷線が開通。本厚木方面との南北を結ぶ、本厚木下津古久線の整備も進めています。産業拠点周辺のアクセスが充実すると、地域経済の活性化や生活利便性の向上、渋滞の解消などが期待できます。

8月は「道路ふれあい月間」です。いつも何げなく利用している道路に目を向け、役割や大切さを考える機会にしませんか。

Zoom Up

負担軽減で活動しやすく

自治会の回覧板を電子化

自治会の負担軽減などに向け、スマートフォンのアプリで回覧物の内容を確認できる電子回覧板を導入しました。6月から、希望する15自治会で運用を開始。高齢者や共働き世帯などが増加する中、会員の作業の効率化などを図り、活発な自治会活動を後押しします。

市内には213の自治会があり、祭りなどイベントの企画・運営、防災・防犯、美化清掃など幅広い活動を展開しています。しかし、高齢者や共働き世帯などが増える中で加入率は年々減少（左欄参照）。活動における負担の増大や関心の低下などが課題になっています。自治会の負担を軽減する取り組みの一つとして、アプリを活用した電子回覧板の運用を始めました。

デジタル化で効率的に

取り入れたのは、自治会向けのアプリ「いちのいち」です。紙の回覧板をデジタル化し、回覧情報に加えて市か

らのお知らせの一斉配信にも対応。会員はいつでもどこでも情報が受け取れます（左欄参照）。電子化により、役員の仕分け作業や回覧板を回す手間がなくなり、負担の軽減や回覧が滞るなどのトラブルの解消が図られます。災害時に緊急の連絡や避難指示などの防災情報もすぐに共有できるので、皆さんの安心・安全にも役立ちます。電子版への切り替えに心配がある自治会は、紙媒体と併用した利用も可能です。電子回覧板を活用する古松台自治会の蒲谷正文さん（75）は「回覧を待たずにどこにいても情報を確認できるので便利。回覧が滞らないため、会員からの不満の声も少なくなった。今後、

さらに機能が増え、より実用的になればうれしい」と話します。

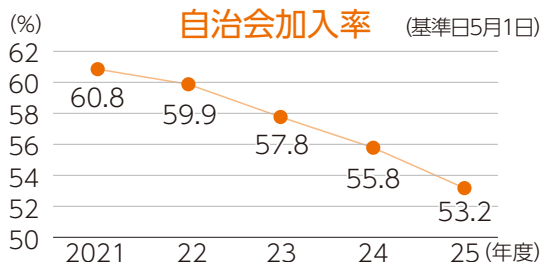
地域住民をつなぐ

自治会は、活動を通して住民同士のつながりを深め、住みよい地域づくりを支えています。市では、自治会の必要性や役割を伝えるパンフレットを新たに作成。来年3月に全戸配布し、自治会への参加意欲や地域への関心を高め、加入の促進につなげていきます。今後も、市民の皆さんや地域に寄り添い、自治会活動の後押しと、参加しやすい環境づくりを進めていきます。

市民協働推進課 ☎25-2101

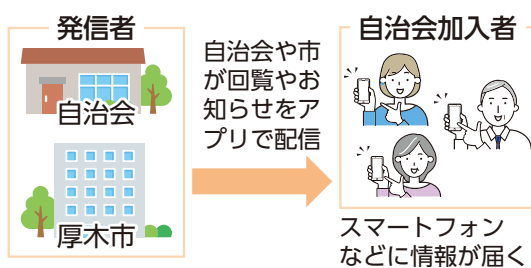


配信操作や閲覧が簡単にできる



電子回覧板の概要

■仕組み



■導入の効果

- ・自治会や市からの回覧情報などが、いつでも取得できる
- ・紙回覧が滞るなどのトラブルが解消する
- ・過去の回覧を閲覧できる
- ・紙の使用量や印刷コストの削減につながる

利用自治会を募集

《費用》 無料

市HPにある申込書をEメールで市民協働推進課 ☎2800@city.atsugi.kanagawa.jpへ。



詳細はこちら

ボランティアを募集

地域で子育て支援

子育てに関する相談や育児を支援するボランティアを募集します。

■子育てアドバイザー

子育て支援センター・サロン室などでの子育て支援

■ほっとタイムサポーター

妊婦や乳児がいる家庭などの家事や育児などをサポート

▲ファミリーサポートセンター提供会員

子どもの一時預かりや保育園への送迎などのサポート

合同講習会

三つのボランティアの合同講習会を開催します。

日時 9月10日 10時～16時45分
12日 9時～16時50分 (全2回)

会場 あつぎ市民交流プラザ、消防本部

対象 市内在住の方30人（託児あり。1歳～小学3年生5人。8月26日までに要予約。先着順）。子育てアドバイザーは別途、保育所実習（半日）が必要。

費用 無料

8月1～26日に子育て支援センター ☎225-2922（▲はファミリー・サポート・センター ☎225-2933）へ。先着順。 ☎

子育て支援センター ☎225-2922

高齢者と障がい者の雇用を後押し

高齢者や障がいのある方を継続して雇用する市内中小企業を支援します。

産業振興課 ☎225-2585



高齢者継続雇用奨励補助金

対象 8月1日現在①市内で1年以上事業を継続②2026年3月31日現在で66～70歳の方を1年以上継続して常用雇用③市税を完納一の全てを満たす従業員数300人以下の市内中小企業など

補助額 1人5万円（3カ月以上継続して市内在住）
または1万円（市外在住）。1企業3人まで

障がい者雇用奨励交付金

対象 8月1日現在①市内で1年以上事業を継続②障がいがある方を1年以上継続して常用雇用③障がい者雇用率2.5%を達成④市税を完納一の全てを満たす従業員数300人以下の中小企業など

交付額 1人10万円（3カ月以上継続して市内在住）
または5万円（市外在住）

※他にも人材確保のための就職フェアや情報サイトの利用に対する費用の補助などの支援制度も設けています▶

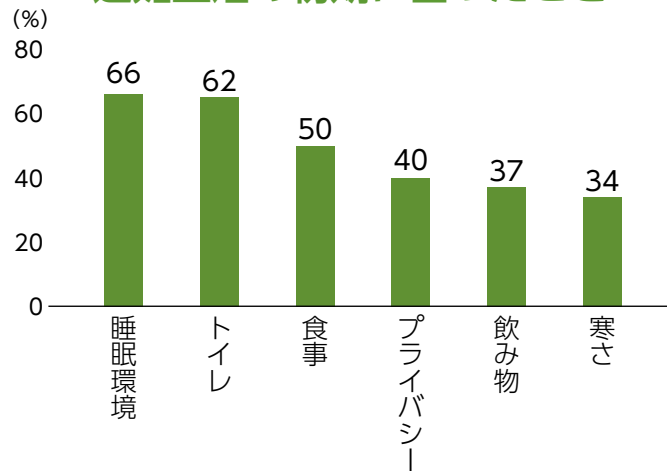


いずれも市HPにある申請書と必要書類を直接または郵送で8月31日（消印有効）までに〒243-8511産業振興課へ。市HPからも申し込み可。



備蓄の目安は7日分

避難生活の初期に困ったこと



●仮設トイレに寄せられた不満の声

- ・使用マナーが悪い
- ・照明がなく暗い
- ・狭い
- ・トイレットペーパーが少ない
- ・手すりがない
- ・男女別になっていない

出典：平成28年熊本地震
「避難生活におけるトイレに関するアンケート」

Q Zoom Up

大規模災害時のストレスを軽減 携帯トイレの備蓄を

大規模な災害が起こると電気や水道などが機能しなくなり、トイレも使用できない可能性があります。被災後のいざという時に備え、携帯トイレなどを用意しておきましょう。

2016年に発生した熊本地震では約18万人が避難生活を余儀なくされました。中でもトイレについては「臭い」「足元や便器が汚い」「中が暗い」などと、ストレスを感じた人の声が多く上がりました（左欄参照）。トイレの回数を減らすために食事や水分を控える、脱水症状などの健康被害を引き起こすほか、水を流さないトイレの使用は、不衛生な状態となり、感染症などの原因にもなります。より健康に被災後の生活を乗り切るためには、食料品などと併せて携帯トイレを備蓄しておくことが重要です。

可能なら7日分の用意を

携帯トイレは、水分に反応して固まる凝固剤とポリ袋がセットになっています。袋を便器にかぶせて用を足し、排せつ物は凝固剤で固めてから廃棄します（右下欄参照）。一日当たりの使用量は一人5回程度とされ、市内のホームセンターや通信販売などで購入できます。

トイレの調査や研究をする日本トイレ研究所の島村允也さん（32）は「災

いざという時に備えろ

害が発生してから自治体などの支援が届くまで、時間がかかることが多い。支援がなくても被災直後から安全で衛生的にトイレを確保できるよう、最低で3日分、できれば7日分は携帯トイレを用意してほしい。あらかじめ使用感を確認することも大切」と話します。

市では災害時の対応力を高めるため、学校などの各指定避難所に応急トイレを用意しています。本年度からは指定避難所の小・中学校で、生活用水を確保する防災井戸や災害用水洗式マンホールトイレなどの導入を検討。災害時のトイレ対策を進めています。

大規模災害が起きた時は飲食物や衣類などの確保も難しくなります。日ごろから必要な物をそろえ、すぐ使える状態にしておくことが大切です。飲食物は賞味期限が切れていないかを定期的に確認しましょう。

災害はいづ起こるか分かりません。被災後のストレスを減らせるよう、必要な物を用意して備えましょう。

☎危機管理課 ☎25-2190

じゃんばかるた大会

参加者募集



まちの魅力や名物が描かれた「厚木かるた」を巨大にして遊ぶ大会を開催します。

日時 9月28日 13時30分～16時30分

会場 荻野運動公園

対象 ①小学生の部
＝市内在住在学の小学生16チーム
②ファミリアの部
＝市内在住在学在勤の方16チーム
いずれも1チーム3～6人

費用 無料

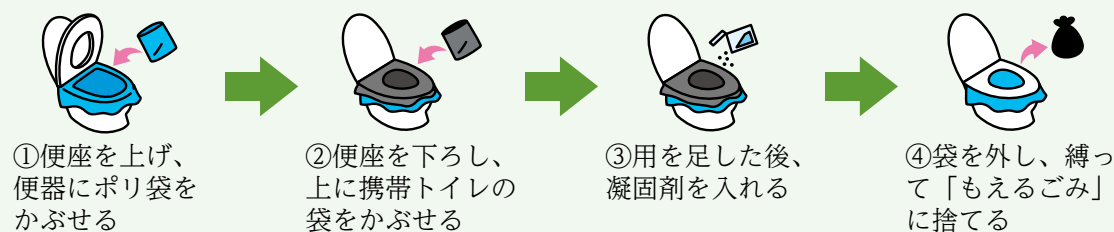
☎ 8月31日までに市HPから申し込み。抽選。

☎企画政策課 ☎225-2450



詳細はこちら

携帯トイレの使い方



知識を身に付け地域の防災リーダーに 防災士資格取得講座

地域で活動する「防災アドバイザー」の担い手を養成するための講座を開催します。
☎危機管理課 ☎225-2190

日時 11月21・22日
9～18時

会場 厚木南公民館

内容 防災士資格を取得するための知識を学ぶ講義と実技

対象 ①防災アドバイザーとして登録・活動できる②市や地域の防災訓練に参加・協力できる③講座開催日までに普通救命講習会を受講④全2日間参加一の全てを満たす市内在住在勤の高校生以上50人
※③が難しい方は防災士資格取得講座中の受講も可

費用 無料

☎危機管理課や市HPにある申込書を直接または郵送で8月1日～9月1日(必着)に〒243-8511 危機管理課 ☎225-2190へ。選考あり。



詳細はこちら

防災アドバイザーとは

市独自の制度。防災士などの資格を持ち、防災・減災の知識や経験を生かして地域や学校などに適切な助言や支援をする。災害時には初動対応や避難所運営などにも協力。

無料 戦没者追悼式 被爆ピアノの映画会・演奏会

戦争の犠牲者への追悼式と、被爆したピアノをテーマにした映画の上映や演奏会を開催します。

■戦没者追悼式

日時 8月21日 10～11時
内容 学生による平和への誓い、献花、被爆ピアノ演奏など

■不要

●映画会

日時 8月20日 15時～17時45分
内容 「おかあさんの被爆ピアノ」を上映

●演奏会

日時 8月21日 17時20分～19時30分
内容 絵本の朗読、市民や音楽家の演奏など
■●8月15日までに市HPから申し込み。

いずれも会場は文化会館。

●地域包括ケア推進課 ☎225-2200



詳細はこちら

平和の実現に向けて

平和に関心を持ち、学べるさまざまな取り組みをしています。

■日本非核宣言自治体協議会への加盟

市では「国際平和と核兵器廃絶を求める都市宣言“あつぎ”」の理念の下、2025年4月1日に加盟しました。

■特集展示「戦後80年平和を考えよう」

戦争の記録や平和に関する本などを展示・貸し出します。

●中央図書館 ☎223-0033

期間 8月1～31日
場所 中央図書館



■長崎の被爆樹木2世クスノキ

爆心地から800mほど離れた場所で親樹が被爆した2世樹木を、厚木中央公園に植樹しています。

●地域包括ケア推進課 ☎225-2200



沖縄の戦争を知った 子どもたちの声

友好都市の糸満市から語り部を招き、小・中学校で沖縄県の戦争に関する講演会を実施しました。参加した藤塚中学3年生の二人に感想や平和に対する思いを聴きました。

小宮 陽鞠さん

同じ年代の人が食料や水もない生活を過ごし、戦争に動員されていたことが怖く、想像ができませんでした。私たちだけでは戦争はなくせないけれど、SNSなどを活用して戦争の事実や平和の大切さを少しでも多くの人に発信し、受け継いでいきたいです。



豊嶋 海晟人さん

当時の写真を見たり話を聴いたりして、とても悲しい気持ちになりました。犠牲となった方をこれからも忘れてはいけなと思います。今も世界のさまざまな場所で争いが絶えません。日本が平和を訴えたり、手を差し伸べたりすることが大切だと思います。



愛TV 8/1～



現地で学んでほしい内容を子どもたちに話す潮田さん



現在の内陸工業団地にあった相模陸軍飛行場 (愛川町教育委員会提供)



出動する前の騰さん



出撃前に隊の仲間と食事を楽しむ騰さんたち



写真でしか見たことがない叔父

命を懸けた叔父と生還した父
山際で生まれ育った叔父の騰さんは、15歳で陸軍に入隊。山梨県の飛行学校を卒業後、航空隊に所属しました。戦いが激化する中で、追い詰められた日本

軍は航空機で敵艦に体当たりする特攻作戦を開始。騰さんはその一員として、出撃を命じられました。母親の強い反対を押し切り、土下座をして「行かしてくれ」と頼み込んだという騰さん。出撃の3日前には相模陸軍飛行場や自宅の上空を旋回し、家族に別れを告げたそうです。「機体から別れの知らせで何かを落としたと聞いたが、物も詳しい記録も残っていない」と潮田さんは残念そうに話します。

遺族会は、太平洋戦争などで家族を亡くした人たちでつくり、戦没者の思いや戦争の記憶を守り継ぐために活動しています。潮田さんは戦争を経験していませんが、戦死した叔父やシベリア抑留を経験した父の思いを受け継いでいます。

戦没者の思いを 守り続ける

市遺族会 会長
潮田 春男さん
(76・山際)



月例祭で戦没者を弔う

の父・正男さんは、その一人です。「家に帰ってきた時は痩せている」と潮田さん。「父は戦争の出来事を一切話さなかった。よほど辛い思いをしたのだろう」と、過酷な日々を察します。

遺志を守り継いでいく

叔父と一度も会うことがなかった潮田さんは、写真や戸籍の記録から戦争のことを知りました。

叔父や父の遺志を守り継ぐために遺族会に入ったのは2016年。翌年からは会長を務めています。会員は約500人で、飯山にある戦没者慰霊堂で清掃や追悼をする「月例祭」などを実施。毎年開催している市の戦没者追悼式にも参列しています。「若い世代にも戦争の事実と会の活動を知ってほしい。高齢化などで戦争経験者が減少し、記憶の継承が課題となる中、遺族会では記念誌の作成などを進めています。」

「戦争は怖く、子どもたちへの伝え方は難しいけれど、今までに起きたことを知り、忘れないでほしい」。多くの人が犠牲となった戦争の記憶を風化させないために、潮田さんたちは亡くなった人たちの思いを紡ぎ続けています。

原爆の事実と犠牲を 忘れないように

市被爆者の会
会長 東 勝廣さん
(82・まつかけ台)



地図などを見せながら当時の話をする東さん

1941年12月、太平洋戦争は開戦しました。45年8月、米国は広島市と長崎市に原子爆弾を投下。焼かれた街では約37万人が死傷し、爆発の衝撃は大きな爪痕を残しました。

自身の目で見た戦争の光景

8月15日に戦争が終結。両親はその後、当時の話をしませんでした。小学校に行っても友達と戦争の話をするとはなかった東さん。中学校に進学すると、やけどの影響で皮膚が腫れるケロイドの跡が残る人や頭髪が抜けている人などを見掛けるようになりました。「その時はなんとも思わなかったが、後に原爆による被害だったと分かった」と振り返ります。鉄骨などが崩れ落ち、復旧が滞る製鋼所を校舎から目にした時、「こんなにもひどかったのか」と、戦争の爪痕と恐ろしさを実感しました。



爆発後に見えたさきご雲 (松田弘道氏撮影 長崎原爆資料館所蔵)

東さんは大学卒業後、重工業の会社へ就職し、勤務地の厚木へ移り住みました。そんな時に市内で被爆者と出会ったことがきっかけで、82年に「被爆者の会」を立ち上げました。被爆による健康被害や風評被害があった中で、被爆者同士が相談できる場を提供。当時は50、60人の会員がいましたが、高齢化などで現在は限られた人数での活動が続いています。当事者が少なくなる中、話を聞いた人が正しく情報を伝え、若い世代にも原爆が落とされた歴史を知ってもらえるよう活動を続けます。「自分が住む街に原爆が落ちたらどうなるのか、自分事として考えることも必要」と訴えます。

「戦争は絶対にいけない。悲しみを繰り返さないよう、当時の出来事を語り継いでいきたい」。80年前に起きた原爆の悲劇を後世に残すため、東さんたちは記憶のたすきをつないでいきます。

悲しみを忘れないために

爆発の被害を受けた三菱長崎製鋼所 (米軍戦略爆撃調査団撮影 長崎原爆資料館所蔵)



負傷者を乗せた救急列車 (県原爆被災者の会「被爆70年忘れないあの日」)

特集 戦後80年

未来へつなぐ 戦争の記憶

空襲や原爆が多くの命を奪った太平洋戦争。8月で、終戦から80年を迎えます。高齢化により戦争経験者が減っていく中、戦没者の思いを受け継ぎ、戦争の記憶を次の世代へつなぐ二人に話を聴きました。

●地域包括ケア推進課 ☎225-2200

太平洋戦争下の主な出来事

- | | | |
|-------|--------|----------------------|
| 1941年 | 12月 8日 | 太平洋戦争開戦 |
| 1944年 | 8月 | 都市部の児童が厚木地方へ疎開 |
| 1945年 | 2月16日 | 厚木・中津飛行場へ攻撃 |
| | 17日 | 米軍機が厚木の上空に現れ、本厚木駅を銃撃 |
| | 3月10日 | 東京大空襲 |
| | 5月29日 | 横浜大空襲 |
| | 7月16日 | 平塚大空襲 |
| | 8月 6日 | 広島市へ原爆投下 |
| | 8月 9日 | 長崎市へ原爆投下 |
| | 8月15日 | 終戦 |

子どもたちに心躍るひとときを 荻野運動公園で「こどもフェスタ」を開催



盛況だった小島よしおさんのステージ

子どもたちにもものづくりの楽しさやまちの魅力を知ってもらう「こどもフェスタ2025」を荻野運動公園で開き、親子連れなど約3500人がイベントを楽しみました。

イベントは、市制70周年記念事業として開催。会場ではドローンやロボットの操縦体験、eスポーツ、おもちゃ作りなど、子どもたちが楽しめるブースが並びました。メインステージではお笑い芸人の小島よしおさんが登場し、会場を盛り上げました。

参加した山岸一朗さん(42・田村町)は「普段できない体験を子どもができて良かった」と話し、息子の瑛さん(11)は「eスポーツとロボット操縦の体験が楽しかった」と笑顔を見せました。

交通事故に気を付けて

国道246号で交通安全啓発キャンペーンを実施

さる訴えました。

キャンペーンは、交通事故の多い国道246号の事故を減らそうと、国道沿線に位置する県央の海老名・秦野・大和・伊勢原・座間・厚木の6市が2023年から合同で実施。行楽シーズンを前にした同日同時刻に交通安全を呼び掛けました。

参加した交通安全指導員の蓮池次郎さん(70・温水)は「交通事故は一人一人が気を付けないとなくならない。掲げた看板が事故に注意するきっかけになった」と話しました。



ドライバーに交通安全を呼び掛け



国道を走るドライバーや通行人に交通安全を呼び掛けるキャンペーンを6月、旧厚木警察署前で実施しました。市や警察、交通安全指導員など約20人がハンドプレートやのぼり旗などを使って交通マナーの大切

独自のブランド品を目指して 大学教授や生産者が厚木産ペピーノをPR

南米原産のフルーツ野菜「ペピーノ」を市独自のブランド品にしようと、大学教授や栽培農家などが市役所を訪れて魅力をPRしました。

ペピーノは、ナス科の野菜で、1980年代に品種改良先のニュージーランドから国内に導入されました。糖度が低く、栽培方法も確立されていませんでしたが、東京農業大学の高畑健教授が研究に着手。糖度が高い果実の栽培に成功し、2017年には高糖度化の特許も取得しています。現在は、ジェラートやジャムなどに商品化され、店舗などで提供されています。

農家の清田洋平さん(46・戸田)は「ペピーノを育てて3年目。今後もより良いものが作れるよう努力したい」と意気込んでいました。



試行錯誤しながら栽培する農家の皆さん

自治会長と市長が意見交換

「あつぎタウンミーティング」がスタート

自治会長と市長が地域課題などを話し合う「あつぎタウンミーティング」が、6月28日から始まりました。初日の会場となった愛甲公民館には自治会長11人が出席し、山口貴裕市長らと意見を交わしました。



意見に耳を傾ける山口市長

タウンミーティングは、市民の声を市長が直接聴き、市政運営に生かすことを目的に実施しています。南毛利南地区の自治会長から「地域の人が元気になるように子どもも大人も楽しめる事業を自治会で催している。市も地域の魅力を伝えるまちづくりを進めてほしい」と意見が出ると、山口市長は「皆さんと協力しながら、地域の魅力向上と活性化に取り組みしていきたい」などと答えました。

タウンミーティングは8月28日まで、市内15地区で実施されます。

未来へ一歩つながる あつき70年 みんなで祝おう！ 70周年

2025年2月1日、市制施行70周年を迎えました。節目の年を皆さんとお祝いするため、スポーツ・文化芸術・歴史など幅広い分野で事業を実施。連載では、旬な話題を紹介していきます。

今月の話題

友好都市と交流を深める

市出身アーティストの井上純さんが、友好都市の沖縄県糸満市などをイメージしてデザインした「オリジナルかりゆしウェア」を制作し、7月から販売を開始しました。



美術館の世界観を厚木に

他には、11月に秋田県横手市の増田まんが美術館に収蔵している作品を紹介するイベントなど、皆さんが楽しめる催しを実施しますのでお楽しみに。

記念事業やイベントなどの情報は、市制70周年記念サイトをご覧ください。



企画政策課 ☎225-2450



「市制70周年かりゆしウェア」を着て参加

ロシア、ウクライナ、イラン、イスラエル…。テレビ画面には、世界で勃発する紛争の様子が毎日のように映し出されます。「戦争を繰り返してはいけない」。私たちは歴史から学んできましたが、争いがなくなることはありません。

日本は、戦後80年を迎えます。歴史を繰り返さないためには、戦争の悲惨さや命の尊さを次世代に伝え続けることが大切です。7月、友好都市の沖縄県糸満市から沖縄戦の体験

者で語り部の久保田曉さん(80)をお招きし、依知小学校と藤塚中学校で戦争体験をお話ししていただきました。

当然ながら私も、戦争を体験していない世代です。それだけに久保田さんが伝える激戦の傷痕や避難生活の記憶は鮮烈で、子どもの頃に「はだしのゲン」や「火垂るの墓」ガラスのうさぎ」で感じた恐怖が脳裏によぎりました。子どもたちにとっても、目の前の人から伝えられた事実は、衝撃として刻まれたことでしょう。

本市は、「国際平和と核兵器廃絶を求める都市」を宣言しています。8月には、平和のための展示会や子どもたちが広島を訪問する平和学習、戦没者追悼式などを行い、市民の皆さんと平和への思いを育んでまいります。

し、子どもの頃に「はだしのゲン」や「火垂るの墓」ガラスのうさぎ」で感じた恐怖が脳裏によぎりました。子どもたちにとっても、目の前の人から伝えられた事実は、衝撃として刻まれたことでしょう。

本市は、「国際平和と核兵器廃絶を求める都市」を宣言しています。8月には、平和のための展示会や子どもたちが広島を訪問する平和学習、戦没者追悼式などを行い、市民の皆さんと平和への思いを育んでまいります。

タウンガイド

8月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 FAX=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
 📅=講座予約システム (70th)=市制70周年記念事業
 愛TV/8/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「夏空」

#7月10日撮影
 #大山
 #入道雲
 #niceatsugi
 市公式インスタ
 グラムで公開中



保育のしごと就職フェア

9月13日、13～16時。アミューあつぎ。市内で働く保育士による各保育施設の紹介や就職の助言など。市内保育施設に就職を希望する方(託児あり。1歳～小学3年生5人。8月26日までに要予約。先着順)。無料。☎不要。☎保育課 ☎225-2768。

「もっと触りたい縄文土器」講座

8月24日。10時30分～、13時30分～(各回60分)。あつぎ郷土博物館。考古担当者の解説を聞き、土器に触れながら厚木の歴史を学ぶ。各回20人。無料。☎不要。先着順。☎文化魅力創造課 ☎225-2515。

救急救命講習会

■ 応急手当上級救命講習会

8月22日、9～17時。心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の取り扱い、出血時の止血法など。市内在住在勤在学の中学生以上30人。無料。

■ 応急手当普及員再講習会

8月26日、13時30分～16時30分。有効期限内の認定証を持っている

市内在住在勤在学の普及員30人。3960円(テキスト代)。

いずれも陸合分署。☎8月1～12日に救急救命課 ☎223-9365へ。抽選。☎

あつぎマラソンボランティアを募集

給水所の補助や会場の整理などを行うボランティアを募集します。

《日時》10月26日、8～12時《場所》荻野運動公園と周辺道路。☎電話またはファクス、Eメールに〒住所、氏名、年齢、電話番号を書き、8月29日までにスポーツ魅力創造課 ☎225-2531・FAX223-0044・✉8850@city.atsugi.kanagawa.jpへ。10月上旬に説明会を開催予定。

都市計画審議会委員を募集

市の都市計画を調査・審議する委員を募集します。

《対象》①市内在住在勤在学で応募日現在18歳以上②平日昼間の会議(年4回程度)に出席できる③他の審議会などの委員でない④市の議員・職員でない⑤の全てを満たす方3人《任期》11月22日から2年間《報酬》日額7800円(交通費含む)。



市民協働提案事業

あつぎストリートフェス

市内在住レゲエアーティスト KARAMUSHI(左)とSEIMA



路上ミュージシャンのストリートライブを楽しみませんか。

日時 8月16日 16時30分～19時30分

会場 中町花の公園

内容 アーティストが演奏を披露

出演 KARAMUSHI and SEIMA、容助/Yoel signal、和紀ほか

☎不要。

☎文化魅力創造課 ☎225-2508



詳細はこちら

70th あつぎジャズナイト2025

プロのミュージシャンなどの生演奏が聴ける「あつぎジャズナイト」。ビールやグルメを味わいながら、総勢10組のアーティストによる2日間のステージをお楽しみください。

日時 8月21・22日 16～20時

会場 厚木公園 ※荒天中止



詳細はこちら



♪のお店でもジャズが楽しめます。《協力店舗》本厚木キャビン、本厚木ミロード、マッカーサーギャレージ

愛TV/8/1～

☎商業観光課 ☎225-2840

☎都市計画課、公民館、市HPにある申込書に応募動機を添え、直接または郵送、ファクス、Eメールで9月1日(消印有効)までに〒243-8511都市計画課 ☎225-2401・FAX222-8792・✉4600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。書類選考あり。

本厚木駅連絡所の臨時休業

8月19・20日は駅ビル休館のため、連絡所・観光案内所を休業します。☎市民課 ☎225-2110。

児童扶養手当現況届・特別児童扶養手当所得状況届

前年の所得や子どもの養育状況を確認するため、受給者は必ず届けてください。

《期間》児童扶養手当＝8月1日

～9月1日、特別児童扶養手当＝8月12日～9月11日。詳細は対象者に郵送で通知。☎子育て給付課 ☎225-2241。

みんなの声でつくるまち

《パブリックコメント》

厚木消防署本署再整備方針

《閲覧期間》8月1日～9月1日《閲覧場所》消防総務課、北消防署・各分署、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、保健福祉センター、市HP《応募方法》閲覧場所にある用紙に掲載。☎消防総務課 ☎223-9366。

厚木市 市民参加

検索

70th ATSUGI URBAN SPORTS FESTIVAL

入場無料

スケートボードやBMX、ブレイキンの迫力あるパフォーマンスを、間近で体感できる「あつぎアーバンスポーツフェスティバル」を開催します。☎スポーツ魅力創造課 ☎225-2531

日時 9月27日 10～17時

会場 厚木中央公園

内容 ●トップアスリートによるパフォーマンス
 ●アーバンスポーツ体験会
 ■ミニコンテスト(スケートボードの愛好者を対象としたコンテスト)

☎不要。■の出場者は8月1日から市HPで申し込み。先着順。 詳細はこちら



ホット

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集中

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報シティプロモーション課 ☎225-2043

7月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆田んぼで泥まみれになりながら稲を植える経験は、一生忘れないものになるだろう／20代女性 ◆空き家の増加は周辺環境の悪化につながるので対策してもらえのはとてもありがたい／50代女性 ◆保護司などの活動は、犯罪の防止につながる重要な制度だと思った／70代以上男性 ◆8月の開催は最後なので、夏の思い出である花火大会が感慨深い／30代女性 ◆今年も花火大会が楽しみ／70代以上男性

編集後記

遺族会の方が慰霊碑に刻まれた名前をなぞりながら、戦争で亡くなったご家族のエピソードを交えて「後世へ戦争のことを伝えていきたい」と訴えていました。私自身は学校の授業などでしか知る機会がなく、取材を通して戦争の悲しさを改めて実感しました。私の祖父母も戦争を経験しています。地元へ帰った時には当時のことを聞いて、未来へと受け継いでいきたいと思います／大矢



ありがとう 永里 優季 選手

幼い頃から、男子に交ざってボールを追いかけた少女は、なでしこジャパンのエースストライカーに成長した。2011年、震災に揺れる日本に勇気をくれたW杯制覇。決勝でゴールを決めるも、一步届かなかった12年五輪。15年のW杯では、姉妹で銀色のメダルを勝ち取った。クラブでは5カ国を渡り歩き、男子リーグにも挑戦。はやぶさいレブンの一員として、厚木でプレーした。「燃え尽きるまでやり切った」と引退を決意。数々の足跡を刻んだレジェンドがピッチを去る。最後に伝えたい。夢と感動をありがとう。

プロフィール
1987年生まれ。蔦尾小・荻野中学校、厚木東(現・厚木王子)高校出身。2011年FIFA女子ワールドカップ(W杯)優勝、12年ロンドン五輪準優勝、15年W杯準優勝に貢献。日本代表では歴代2位となる58得点を記録した。08年市民功労表彰、11・12・15年市特別表彰を受賞。



W杯では多くの市民が声援



2011年に特別表彰を授与



共に戦った日々を、もう一度
引退試合・サッカークリニック開催 日にち **9月15日** 会場 **荻野運動公園**

永里選手の引退を記念するイベントを、地元・厚木で開催します。
☎スポーツ魅力創造課 ☎225-2531

■引退試合
時間 15時～
内容 W杯優勝メンバーなどが参加する特別試合
費用 4000円(芝生自由席2000円)
高校生以下は無料

●サッカークリニック
定員 ①10～11時＝小学生80人
②11時10分～12時10分＝中学・高校生50人
内容 永里選手による直接指導
費用 無料
いずれも☎特設サイトから申し込み。●は抽選。 詳細はこちら



自然歳時記

●キビタキ●
ヒタキ科

初夏に東南アジアから渡ってくる夏鳥。体長は13.5㎝ほど。雄は眉班や喉、胸、腰が黄色く気品がある。雌は地味だが美しい。広葉樹林での鳴き声は、心洗われるほど美しい／不動尻で見つけた。 写真・文／吉田文雄



暑い夏だが、木々に囲まれた森を歩くと、うそのように涼しい。

遠くの方から「ピックルルピピロピピロ」という鳴き声が聞こえてきた。耳を澄まして声の方向に双眼鏡を向けると、ケヤキの中ほどの枯れ枝の上に黄色い胸が目立つ雄のキビタキの姿があった。

太陽の光を遮る緑の葉を背景に小さな体で鳴く姿は、日常の疲れを忘れさせてくれる。幾重もの緑の葉が風に揺れ、すがすがしい空気が流れる。片足をそっと胸に納めたキビタキはゆったりとくつろいで見えた。

秋に南へ渡っていく、素晴らしい歌の贈り主の平穏無事を祈った。